

最優秀賞

神奈川県共同募金会長賞

自分のできることから始めよう

大井町立湘光中学校

一年 平野

礼

「ちょっと行ってくるね。」

と私のばあばは、出掛けていきます。私が小さい頃、ばあばはお店をやっていたので、お店の休憩時間に出掛けていくのです。小さいながらに『ばあばはどこに行くのかな?』と思っていたのを覚えています。

あるとき、不思議に思った私は

「ばあばはどこに行ってきたの?」

と聞いてみました。すると、

「ほほえみさんに行ってきたのよ。」

とばあば。

「ほほえみさんって?」

「障がいを持つている人がいろいろ作ったり、お仕事をする所でね、ばあば達は、着なくなった洋服をリサイクルで売って、そのお金を社協に寄付しているんだよ。」と教えてくれました。

「着なくなった服を捨てれば、ゴミになるけど、リサイクルすれば、ゴミの減量化につながるでしょう?」と。

小さかった私には、その意味がよくはわからなかったけれど、なんとなくばあばは人の役に立っているのだなあと感じたのでした。

中学生になり、学校で『ボランティア募集』というお手紙をもらいました。その時は、あまり気にもとめませんでした。家に帰り、その手紙をばあばに見せると、

「礼ちゃんもボランティアやれば?」

と何げなく言われました。『えー??私にボランティアなんてできるのかなあ?ボランティアってそんな簡単にできることなの?』と思いました。

そこで、ボランティアってどういうことだろうと調べてみると、『自分から進んで、社会活動に無償で行う活動のこと』とありました。

『私に出来ることって何だろう?』まず、自分ができることを考えてみました。でもなかなか思い浮かばず、時間が過ぎていきました。そして、小さい頃のばあばが出掛けて行く姿を

思い出しました。

「ねーばあば、何でボランティアを始めたの？」
ときっかけを尋ねてみると、

「初めは、仕事をしながら、自分の負担にならないで、人のお役に立てて、喜んでもらえればと思って、始めたの。今は、レスバイトといって、障がいのある子と一緒にプールに行ったり、昼食を作ったり、みんなでいろいろやっているの！」

そんなばあばの話をきいて、ボランティアをする上で、必要なのは、笑顔とコミュニケーションだと思いました。私はばあばとちがいが、人見知りなので、人にすぐ話しかけたり話しかけられても笑顔で対応することが苦手です。でも、ばあばが私に言ってくれました。

「笑顔であいさつしてもらえると、元気がもらえるし、元気がないと、どうしたの？ って聞くでしょう。いつも私たちがしていることを、お互いに負担にならないくらいの気持ちでやればいいのよ。ボランティアって言うの大変そうだけど、例えば、道に落ちているゴミを捨てることもそのひとつなのよ。そういうことなら、礼ちゃんもできるんじゃない？」

そう言われて、もう一度考えてみると、『そうか、そういうことなら、私にもできるかもしれない』と思いました。

まず、学校に行く途中で見送りしてくれる地域の人たちに『あいさつ』をしてみようと思います。ただあいさつをするのではなく、気持ちよく感じられるように言ってみる。自分だけでなく、周りの人を元気にできるように笑顔で言ってみる。そして次に目についたゴミを

拾ってみよう。最初は恥ずかしいかもしれないけれど、チャレンジしてみようと思います。そういうことを少しずつ、続けていくと、次にまたできることが増えていくような気がします。自分からできることが増えれば、たくさんの発見や喜びも増え、充実感が味わえて、私自身も成長していけると思います。

自分のペースで、長く続けられるように、勇気と積極性を持って取り組んでいきたいと思
います。

